

BUDŌ NEWS

今月のニュース

第 73 回全日本学生剣道選手権大会
第 72 回全日本学生剣道東西対抗試合
第 59 回全日本女子学生剣道選手権大会
第 19 回全日本女子学生剣道東西対抗試合



学生選手権大会優勝の藤島心選手（右）と
日本体育大学剣道部・古澤伸晃部長兼男子監督

第 59 回全国道場少年剣道大会



1 回戦の様子

令和 7 年度全国高等学校
定時制通信制体育大会
第 56 回剣道大会



男子団体決勝 神奈川県 A（右）対福岡県

第 56 回全日本青年銃剣道大会
第 37 回全国高校生銃剣道大会



全日本青年銃剣道大会・青年第 2 部決勝
第 16 普通科連隊 A（左）対第 40 普通科連隊

特集

令和7年度

全日本少年少女武道錬成大会

武道の聖地で始まる夏物語

令和7年度全日本少年少女武道錬成大会は、7月20日の合気道から始まり、弓道（21日）、剣道（26・27日）、空手道（8月2日）、柔道（3日）、銃剣道（6日）、少林寺拳法（9日）、なぎなた（10日）の合計8種目を9日間で行い、約1万名が参加した。

平年より早い梅雨明けとなり、大会開催期間中も連日のように日本各地で猛暑日が記録される中、武道の聖地・日本武道館に集まった少年少女たちは、暑さに負けず元気^{はつらつ}潑刺とした声を出し、日頃の稽古の成果を思う存分に発揮した。



少林寺拳法



柔道



剣道



合気道



なぎなた



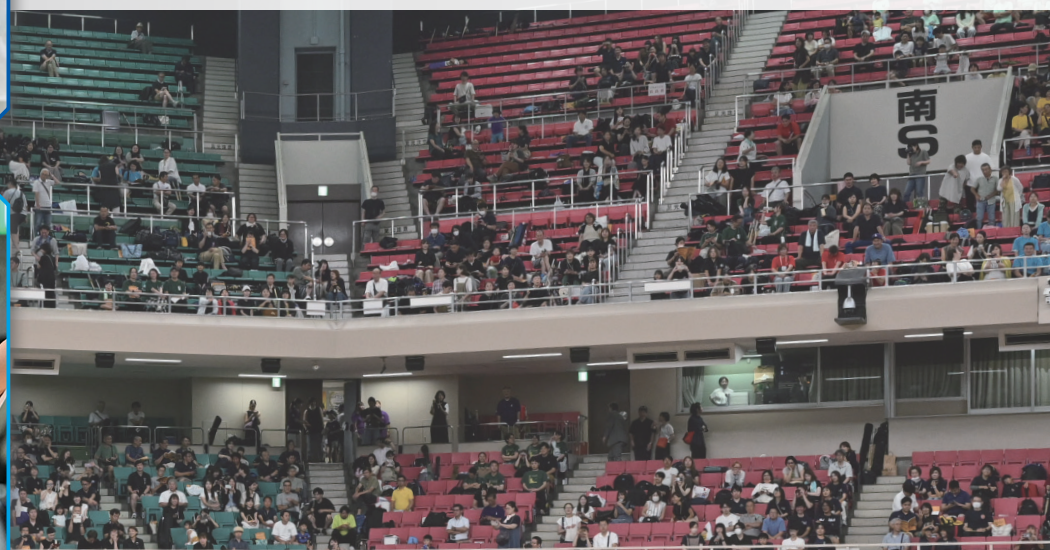
銃剣道



空手道



弓道



合気道

7月20日

135団体・1480名参加



模範演武
植芝充央合気道本部道場長（左）



大会名誉会長挨拶
植芝守央
合気会理事長



大会会長挨拶
山谷えり子
日本武道館常任理事



ちかいのことば 松崎玲香（中学2年・左）、
中山恵太（中学2年）つくば合気道会



参加者をA班（午前の部）・B班（午後の部）に分けて同じ錬成内容を実施した。午前の部に開会式が行われ、山谷えり子日本武道館常任理事と植芝守央合気会理事長が挨拶に立った。稽古錬成は、本部道場指導部師範が手本を示し、全員で準備運動や船漕ぎ運動などを行った。続いて、各団体の演武錬成が行われ、演武時間2分という限られた中で、元気いっぱい、日頃の稽古の成果を披露した。午後の部の最後に、植芝充央合気道本部道場長が模範演武を行い、錬成大会を締めくくった。

弓道

7月21日

93団体・892名参加



ちかいのことば
木村はな（中学3年）
福島県立会津学鳳中学校弓道部



大会名誉会長挨拶
田中健二
全日本弓道連盟理事



大会会長挨拶
森 英介
日本武道館常任理事



特別演武を真剣なまなざしで見える選手たち



特別演武 日本大学弓道部
（左から）松瀬天愛参段、田中咲妃初段、千明望々式段

開会式では、森英介日本武道館常任理事と田中健二全日本弓道連盟理事が挨拶。その後の基本錬成では、選手全員での準備体操と徒手八節が行われ、続いて日本大学弓道部による特別演武（演武者Ⅱ松瀬天愛参段、田中咲妃初段、千明望々式段）が披露された。

試合錬成では、はじめに予選（立射）として全チームが計12射（1チーム3名 各4射）を行い、6中以上のチームが決勝へと進出した。決勝（坐射）も同ルールで的中数を競い、優秀賞、優良賞（ともに男女各2チーム）および敢闘賞（男女各4チーム）を決定した。大会中、大道場には矢が的を貫く快音と応援の歓声が響きわたり、4射皆中した選手には会場全体から盛大な拍手が送られた。



剣道

7月26・27日

613団体・3783名参加



大会名誉会長挨拶（両日）
真砂 威
全日本剣道連盟会長



大会会長挨拶（27日）
塩谷 立
日本武道館常任理事



大会会長挨拶（26日）
河村建夫
日本武道館常任理事



公開演武「木刀による剣道基本技稽古法」
（東京都・板橋区剣道連盟）



ちかいのことば（27日）
堀本新明
（愛媛県・三津浜剣道会）



ちかいのことば（26日）
大河原啓多
（茨城県・青雲塾剣剣会）

開会式では河村建夫日本武道館常任理事（26日）、塩谷立同常任理事（27日）がそれぞれ大会会長挨拶を述べ、真砂威全日本剣道連盟会長が大会名誉会長挨拶を述べた（両日）。続く公開演武では、板橋区剣道連盟の代表者が「木刀による剣道基本技稽古法」を披露した。

基本錬成に移ると、少年少女剣士たちが約1400畳の大道場を埋め尽くし、準備体操と手刀での素振りを行った。その後の試合錬成では団体戦のトーナメントが行われ、1・2回戦は切り返しと打ち込み稽古の基本判定試合および1本勝負により、3回戦以降は3本勝負によって勝敗が競われた。出場選手たちは全力で試合に取り組み、連日の猛暑を吹き飛ばす熱戦を各試合場で繰り広げた。



空手道

8月2日

98団体・1090名参加



大会会長挨拶
川端達夫
日本武道館理事長



大会名誉会長挨拶
笹川 堯
全日本空手道連盟名誉会長



ちかいのことば
田代遥大（中学3年）
佐世保尚武館



模範演武・駒澤大学空手道部女子団体系「五十四歩小」
（左から）関澤愛莉二段、福田純香三段、稲璃岬初段



模範演武・シニアナショナルチーム男子団体系「雲手」
（左から）北澤以進二段、岡本拳二段、菊地凌之輔三段



開会式では、川端達夫日本武道館理事長と笹川堯全日本空手道連盟名誉会長が挨拶。模範演武では、駒澤大学空手道部の女子団体系とシニアナショナルチームの男子団体系が披露された。基本錬成では、上段・中段突き、上段・中段蹴りなどを行い、気迫溢れる参加者の声が響き渡った。試合錬成では、小学1・2年生の部、小学3・4年生の部、小学5・6年生の部、中学生男子の部、中学生女子の部に分かれて、形競技による予選と、組手競技による決勝トーナメントが行われ、白熱した試合が繰り広げられた。

柔道

8月3日

244団体・1796名参加



大会会長挨拶
高村正彦
日本武道館会長



大会名誉会長挨拶
中里壮也
全日本柔道連盟副会長兼専務理事



来賓祝辞
浅野敦行
スポーツ庁次長



ちかいのことば 長沼哲生（小学6年・左）、
岡田陽博（小学6年・中央）、内山翔（小学4年）
山梨県・悠信館ふじみ少年柔道教室



基本錬成
橋本壮市選手（左）による袖釣込腰の指導



開会式では、高村正彦日本武道館会長と中里壮也全日本柔道連盟副会長兼専務理事が挨拶。基本錬成では、大道場いっぱいに広がり参加者全員で準備運動と受け身の練習を行った。続いて、宇高菜絵指揮者のもと、世界で活躍する4名の柔道選手（橋本壮市、田嶋剛希、嘉重春樺、玉置桃）が技の解説を加えながら演武を行った。

試合錬成では、高学年・低学年の部に分かれて、各試合場で熱い戦いが繰り広げられた。

銃剣道

8月6日

38団体・179名参加



大会会長挨拶
片岡正徳
日本武道館常任理事・事務局長



大会名誉会長挨拶
番匠幸一郎
全日本銃剣道連盟会長



ちかいのことは 大桃恭都 (中学3年)
元気道場



特別演武
長谷川元教士八段 (左)、丸山育男教士七段



開会式では、片岡正徳日本武道館常任理事・事務局長と番匠幸一郎全日本銃剣道連盟会長が挨拶。少年少女武道優良団体表彰を挟み特別演武が披露された。続いて小学4年生以下と5年生以上に分かれて銃剣道と短剣道の合同錬成が行われ、大道場に元気な声が響いた。

個人試合錬成は、短剣道と銃剣道が部門ごとに行われ、最後は小学5・6年生と中学生の部門に分かれて団体試合錬成（銃剣道）が行われた。会場からは応援を込めた拍手や声援が送られた。

少林寺拳法

8月9日

166団体・860名参加



大会名誉会長挨拶
宗 昂馬
少林寺拳法連盟会長



大会会長挨拶
高村正彦
日本武道館会長



鎮魂行 主座・中込志織



招待演武披露 男子組演武
桜林高校少林寺拳法部



大会は鎮魂行から始まった。開会式では、高村正彦日本武道館会長と宗昂馬少林寺拳法連盟会長が挨拶。基本錬成では中井弘佑正拳士五段の指揮の下、準備体操から始まり、突きや蹴り、受けなどを稽古し、元氣いっぱい少年少女拳士たちの声が大道場に響き渡った。演武錬成は、単独演武・組演武・団体演武を行った。

今大会は「ひとりひとりの成長を、手も心も合わせて」をテーマに掲げ、少年少女拳士たちが日頃の修練の成果を存分に発揮する場となった。



なぎなた

8月10日

131団体・765名参加



大会会長挨拶
山谷えり子
日本武道館常任理事



大会名誉会長挨拶
久保素子
全日本なぎなた連盟会長



ちかいのことば
濱本あみか（中学3年）
嬉野なぎなたクラブ



基本錬成
指揮 木本佐知子教士



開会式では、山谷えり子日本武道館常任理事と久保素子全日本なぎなた連盟会長が挨拶。開会式後の基本錬成では、参加者全員で準備体操を行い、その後、木本佐知子教士の指揮のもと小学1～3年生の参加者が足捌きと基本打ちの素振りを行った。

競技では、はじめに2人一組での演技競技（小中学生4部門9ブロック）が行われ、各学年の部門ごとに指定されたしかけ応じの技を行い、勝敗を競った。次に行われた試合競技では、女子（小学3年生・中学3年生の部）と男子（小学男子3・4年生、同5・6年生、中学男子の部）に分かれ、トーナメント戦を行った。

第73回全日本学生剣道選手権大会・第72回全日本学生剣道東西対抗試合

藤島心（日本体育大学）が接戦を制して優勝



【決勝】藤島（右）対 高島

第73回全日本学生剣道選手権大会（主催Ⅱ全日本学生剣道連盟、毎日新聞社）が7月5・6日に日本武道館で開催され、全国8ブロック（北海道・東北・関東・北信越・東海・関西・中国・九州）の予選を勝ち上がった212名が学生剣道日本一を目指し、熱戦を繰り広げた。

決勝は藤島心（日本体育大学）と高島壮右馬（筑波大学）が争い、藤島が小手を決めて一本勝ちで優勝した。

選手権大会終了後に行われた東西対抗試合では、東軍が2人残して勝利し、2年ぶりの優勝となった。

本大会および女子選手権大会は、昨年まで男女一日ずつ行われていたが、本年度は新たな試みとして、初日の5日に1・2回戦、2日目の6日に3回戦から決勝までの試合を2日間通して男女同時進行で行う形式がとられた。



男子準決勝第3コートでは藤島と中尾王真（法政大学）が対戦。中尾が突きを外したところに藤島が面を決め、2本目も藤島が再度飛び込み面を決め、藤島が二本勝ちで決勝に

進んだ。同第4コートでは高島と船迫仁也（鹿屋体育大学）が対戦。高島が小手で先制し、船迫が面を取り返し追いつくも、終盤戦に高島が再び小手で一本を奪い、決勝に進んだ。ともに初優勝がかかる藤島と高島の決勝。試合中盤、高島が手元を上げた瞬間を藤島が鋭い小手で捉え、一本。高島が懸命に挽回を狙うも、藤島が攻撃の手を緩めずに応戦。激戦の末、試合時間5分が終了し、藤島が一本を守り切って優勝した。

優勝者コメント



優勝＝藤島心選手

初優勝に輝いた藤島選手。「(優勝の実感)は全くないですね」と語りながらも、その心中は本大会への熱い思いに溢れていた。

「関東大会ではベスト64止まりで悔しい思いをしたので、この1カ月間『全

日本大会では絶対に優勝する』という気持ちを持って稽古に励んできました。ただ、試合中は目の前の相手一人一人と全力で戦うことを意識して、優勝にとらわれすぎないように戦いました」

学生剣道日本一を手にした藤島選手。次なる目標は悲願としている秋の全日本学生剣道優勝大会(団体戦)での優勝だと語る。

「今回、日本一というタイトルを授かったので、その責任を感じながらチームを引っ張っていきたいと思います」



【準決勝①】藤島(左) 対 中尾



【準決勝②】高島(左) 対 船迫



【東西対抗試合】
山野(東軍・三将/右) 対 寺前(西軍・大将)

○東西対抗は東軍が2年ぶりに勝利
大澤(順大)が7人抜き活躍
選手権大会終了後に、各地域連盟から選出された東西各20名の選手による東西対抗試合が行われた。試合は3分1本勝負の勝ち抜き戦で行われ、大将の試合のみ3分区切りの延長戦(2回)が行われる。

東軍・十八将の大澤柊也(順天堂大学)が7人を抜き、東軍が大きくリードする。その後、西軍・十二将の向井崇真(関西学院大学)が大澤を退け、4人抜きで迫る。一進一退の攻防戦が続き、ついに東軍・七将の高橋京太郎(法政大学)に対し

て、西軍は大将の寺前俊佑(関西大学)が出場する。寺前は高橋を面を下し、続けて3人を勝ち抜く活躍を見せる。しかし東軍・三将の山野慎治(中央大学)が小手で寺前を下し、東軍が2年ぶりに勝利を収めた。

【選手権大会結果】

●優勝

藤島心(日本体育大学・4年)

●準優勝

高島壮右馬(筑波大学・3年)

○3位

中尾王真(法政大学・3年)

船迫仁也(鹿屋体育大学・3年)

▽敢闘賞

濱田大佑(鹿屋体育大学・2年)

内田雄敬(近畿大学・3年)

内藤瑞貴(関東学院大学・4年)

柴田琉成(日本体育大学・4年)

【東西対抗試合結果】

●優勝Ⅱ東軍

★優秀選手賞

・東軍

大澤柊也(順天堂大学・4年)

宮本颯太(中央大学・4年)

高橋京太郎(法政大学・4年)

山野慎治(中央大学・4年)

・西軍

向井崇真(関西学院大学・4年)

藤田仁平(中部学院大学・4年)

寺前俊佑(関西大学・4年)



【決勝】村田（右）対 佐藤

村田結依（中央大学）が初優勝、中央大勢で初

第59回全日本女子学生剣道選手権大会・第19回全日本女子学生剣道東西対抗試合

第59回全日本女子学生剣道選手権大会（主催Ⅱ全日本学生剣道連盟、毎日新聞社）が7月5・6日に日本武道館で開催され、全国8ブロック（男子と同様）の予選を勝ち上がった120名が女子学生剣道日本一を目指し、各試合場で白熱した試合を展開した。

決勝は村田結依（中央大学）と佐藤悠月（山形大学）が争い、村田が延長戦で面を決め、中央大学勢として初の本大会優勝を果たした。

女子選手権大会終了後に行われた東西対抗試合では、東軍が4人残して勝利し、2年ぶりの勝利を収めた。

大会は男子選手権大会と同時進行で行われ、1日目に1・2回戦、2日目に3回戦から決勝まで行われた。



女子準決勝第5コートでは佐藤と荒井茉莉（明治国際医療大学）が対戦。試合中盤に佐藤が小手を先取。

さらに、上段に構える荒井が竹刀を振り下ろした瞬間を佐藤が面で捉え、二本勝ちで決勝に進出。同第6コートでは村田と松山若樹（早稲田大学）が対戦。実力伯仲の試合は本戦5分間、延長戦3分間で決着がつ

かず、2回目の延長戦へ突入する。開始直後、松山が面に飛び込んだところを村田が体をさばきながら面に乗り、一本勝ちとなった。

決勝は、村田と佐藤の対決。両者とも1年生時に本大会ベスト8に入賞した実力者であり、互いに決め手を欠いたまま延長戦へ突入する。延長戦開始直後、佐藤が面を放ち鏑（つば）り合いになる瞬間、互いに引きながら面を打つ。わずかに早かった村田の面に旗が3本上がり、一本。村田が初の優勝に輝いた。

優勝者コメント



優勝＝村田結依選手

昨年は1年生でベスト8に入賞した村田選手。今回の優勝の感想を伺うと「率直に嬉しいですし」と笑顔で語った。

「昨年はベスト8に入賞して嬉しかった気持ちより、決勝の舞台を見ながら感じた負けの悔しさの

方が大きかったので、『来年は絶対にこの舞台に立つ』ということを考えて一年間頑張ってきました。中央大学の剣道部には、全国で活躍する先輩方が多く在籍しており、稽古の中でさまざまな技を学ぶことができるので、高校の時よりも技数が増えたと実感しています」
次の目標は秋の団体戦。「先輩方を日本一に導けるようがんばります」と力強く答えた。



【準決勝①】佐藤（右）対 荒井



【準決勝②】村田（右）対 松山



【東西対抗試合】

佐藤（東軍・中堅）対 谷口（西軍・大将）
佐藤（左）が面を決め、東軍の勝利を決めた

○東西対抗は東軍が4人残して勝利
女子選手権大会終了後に、各地域連盟から選出された東西各10名の選手による東西対抗試合が行われた（試合ルールは男子と同様）。
東軍・先鋒の猪原悠月（中央大学）が2人抜き、同・七将の松本奈々（国士舘大学）が3人抜きと東軍が大きくリードする。追いつきたい西軍であったが、女子選手権大会準優勝の佐藤が東軍・中堅として立ち上がり、西軍・副将の千代谷晴華（環太平洋大学）と同・大将の谷口妃奈里（鹿屋体育大学）を勝ち抜き、東軍が圧倒的な力で勝利した。

【女子選手権大会結果】

●優勝

村田結依（中央大学・2年）

◎準優勝

佐藤悠月（山形大学・3年）

○3位

荒井茉有（明治国際医療大学・2年）

松山若樹（早稲田大学・3年）

▽敢闘賞

海野美帆（早稲田大学・3年）

芦田敬子（筑波大学・3年）

門田理佳（明治大学・2年）

岩原千佳（筑波大学・3年）

【東西対抗試合結果】

●優勝Ⅱ東軍

★優秀選手賞

・東軍

猪原悠月（中央大学・4年）

松本奈々（国士舘大学・4年）

佐藤悠月（山形大学・3年）

・西軍

久保晴佳（大阪体育大学・4年）

千代谷晴華（環太平洋大学・3年）



第59回全国道場少年剣道大会

小学生の部

福岡如水館A（福岡）が 4年ぶりの優勝



【小学生の部 決勝】中堅戦＝川上（如水館・左）対野本



小学生の部 優勝
福岡如水館A（福岡）

第59回全国道場少年剣道大会（主催Ⅱ全日本剣道道場連盟）が7月29・30日、日本武道館で開催された。大会には小学生の部732チーム、中学生の部592チーム、合わせて約4000名の選手が参加した。

29日・小学生の部の決勝は福岡如水館A（福岡）と小曽根剣友会（大阪）が対戦。福岡如水館Aが2―0で勝利した。30日・中学生の部の決勝は東松館道場A（東京）と剣修館道場（静岡）が対戦し、2―1の接戦を制した東松館道場Aが優勝に輝いた。

本大会は団体戦（1チーム3人）

のトーナメントで行われた。北は北海道から、南は沖縄まで全国47都道府県の剣道道場が参加した他、国内のみならずサイパン、台湾など海外からも3チームが参加し、各試合場で熱戦を繰り広げた。

◇

小学生の部決勝は、4年ぶりの優勝を目指す福岡如水館のAチームと、初優勝がかかる小曽根剣友会の対戦。先鋒戦は引き分け、中堅戦では川上桃子選手（如水館）が飛び込み面と鐙（つば）競り合いからの引き面を決め、勝利。大将戦では山下瑞葵選手（如水館）が、北東大輝選手（小曽根）の技の打ち終わりに面を決め、一本勝ち。福岡如水館Aが優勝した。

◇

中学生の部決勝は、過去7回の優勝経験がある東松館道場のAチームと初優勝を狙う剣修館道場の対戦。先鋒戦は松村睦己選手（東松館）が小手で一本勝ちし、中堅戦は引き分け。大将戦では松本宗大選手（東松

中学生の部

東松館道場A（東京）が 接戦を制し優勝



【中学生の部 決勝】大将戦＝松本（東松館・右）対大鹿（哲）



大道場には16の試合場がつくれ、各試合場で熱戦が繰り広げられた

館）が先に小手で一本を先取するも、大鹿哲郎選手（剣修館）が試合終盤で面を取り返す。大鹿選手があと一本取れば代表戦という場面であったが、引き分けのまま試合時間が終了。接戦を制した東松館道場Aが8度目の優勝を手にした。

【大会結果】

■小学生の部

●優勝＝福岡如水館A（福岡県）

◎準優勝＝小曾根剣友会（大阪府）

○3位＝相浦武道会（長崎県）

▽敢闘賞＝勝平道場A（秋田県）

▽敢闘賞＝錬武館A（神奈川県）

さくら少年剣道部（岐阜県）

都岡剣友会A（神奈川県）

諫早少年剣道 亀舟館（長崎県）

■中学生の部

●優勝＝東松館道場A（東京都）

◎準優勝＝剣修館道場（静岡県）

○3位＝明豊道場（大分県）

福岡無名塾（福岡県）

▽敢闘賞＝上の台剣友会A（千葉県）

久枝剣友会（愛媛県）

郁文館道場（東京都）

高島平剣仁会A（東京都）



中学生の部 優勝
東松館道場A（東京）

男子団体

神奈川県Aが8連覇

令和7年度全国高等学校定時制通信制体育大会 第56回剣道大会



男子団体優勝＝神奈川県A



【男子団体決勝】

先鋒戦：中村真聡（神奈川県A・右）対西島柊（福岡県）

令和7年度全国高等学校定時制通信制体育大会 第56回剣道大会（主催Ⅱ全国高等学校体育連盟定時制通信制教育振興会、全国高等学校体育連盟、全日本剣道連盟、東京都教育委員会）が8月4日、日本武道館で開催された。試合は団体戦と個人戦（いずれも男女）が行われ27都道府県から220名の選手が参加した。

男子団体は神奈川県Aが8連覇を達成、女子団体は福岡県が代表戦を制し優勝した。男子個人は尾形凌選手（勇志国際高等学校宮崎）が2連覇、女子個人は長町明日葉選手（勇志国際高等学校宮崎）が初優勝に輝いた。

男子団体決勝は、本大会通算32回の優勝を誇り7連覇中である神奈川県Aと、第12回大会以来の優勝に王手をかけた福岡県の対戦。優勝常連である神奈川県Aはその地力を遺憾なく発揮し、先鋒、次鋒、中堅と3連勝し勝負を決めた。福岡県も副将戦は引き分け、大將戦は松隈勇介選手（星槎国際高等学校福岡中央学習センター）が2本立て続けに面を奪い勝利するなど、最後まで善戦した。

女子団体決勝は3連覇中の福岡県と県として4年ぶりの優勝を目指す埼玉県Bが対戦。先鋒戦は引き分け、中堅戦では福岡県の日浦香花選手（並木学院高等学校福岡）が小手を奪い一本勝ち。福岡県が大きな一勝を手にして迎えた大將戦、埼玉県Bの安部来春選手（埼玉県立大宮中央高等学校）が相打ちの面を制して一本を先取する。試合はそのまま安部選手が一本勝ちし、勝ち数、取得本数が同点のため、試合は代表戦に突入した。代表戦は福岡県・矢山



女子団体優勝＝福岡県



【女子団体決勝】

代表戦：矢山（福岡県・右）対角田（埼玉県B）



【女子個人決勝】長町（右）対高橋



【男子個人決勝】尾形（左）対平岡



女子個人優勝
長町明日葉選手



男子個人優勝
尾形凌選手

美涼選手（福岡県立博多青松高等学校）と埼玉県B・角田結菜選手（埼玉県立大宮中央高等学校）が対戦。一本勝負の緊張感の中、矢山選手の出はな面が決まり、福岡県が4連覇を達成した。

男子個人決勝は、前回大会優勝の尾形選手と同3位の平岡陵照選手（水戸平成学園高等学校）が対戦。実力伯仲の試合は2回の延長戦にもつれ込み、尾形選手が相打ちの面に競り勝ち、2年連続の優勝に輝いた。

女子個人決勝は初の決勝進出となる長町選手と前回大会優勝の高橋ひな選手（長崎県立佐世保中央高等学校）が対戦。勝負は延長戦に突入

し、長町選手が、返し技を狙う高橋選手の竹刀の上から面を打ち込み、一本。嬉しい初優勝となった。

【大会結果】

■男子団体

●優勝 神奈川県A

◎準優勝 福岡県

○3位 大阪府、岐阜県A

■女子団体

●優勝 福岡県

◎準優勝 埼玉県B

○3位 山口県、兵庫県A

●優勝

尾形凌

（宮崎県・勇志国際高等学校宮崎）

◎準優勝

平岡陵照

（茨城県・水戸平成学園高等学校）

○3位

宮澤一弘

（東京都・星槎国際高等学校八王子）

佐藤航貴

（秋田県・秋田県立秋田明徳館高等学校）

■女子個人

●優勝

長町明日葉

（宮崎県・勇志国際高等学校宮崎）

◎準優勝

高橋ひな

（長崎県・長崎県立佐世保中央高等学校）

○3位

岡山瑠奈

（福岡県・福岡県立ひびき高等学校）

石川優美

（秋田県・秋田県立秋田明徳館高等学校）

第56回全日本青年銃剣道大会

第16普通科連隊（長崎）

2部門制覇

第56回全日本青年銃剣道大会（主催Ⅱ全日本銃剣道連盟）が8月7日、日本武道館で開催された。試合は団体戦2部門（青年第1・2部）が行われ、各部門で熱戦が繰り広げられた。

青年第1部の決勝は第16普通科連隊（長崎）と日本原駐屯地（岡山）が争い2―1で第16普通科連隊が優勝、青年第2部の決勝は第16普通科連隊A（長崎）と第40普通科連隊（福岡）が対戦し、2―1で第16普通科連隊Aが優勝し、両部門とも第16普通科連隊が制した。

本大会は、23歳以上29歳未満の選手が出場する第1部、15歳以上23歳未満（高校生を除く）の選手が出場する第2部の2部門があり、団体戦（3人戦）のトーナメントによって各部門の日本一を決定する。第19回大会から前回大会まで開催されていた個人戦女子の部は、全日本女子銃剣道選手権大会として本年8月8日に開催された。

青年第1部の決勝は、昨年準優勝



の第16普通科連隊（以下、16普連）と、初優勝を目指す日本原駐屯地（以下、日本原）の対戦。先鋒戦は日本原・大橋真悟選手が上胴で一本勝ち。続く中堅戦は判定2―1で16普連・北翔太朗選手が勝利し、勝負は大將戦へ。大將戦も互いに一本を決め、判定へもつれ込む接戦となり、判定2―1で16普連・山口楓太選手が勝利。大激戦の末、16普連が2年ぶりの優勝となった。

青年第2部の決勝は、2連覇中の



【青年第1部決勝】大將戦：16普連・山口（右）対日本原・堀



【青年第2部決勝】中堅戦：16 普連 A・小池（左）が下胴を決める

16 普連 A と、第53回大会の第1部以来の優勝を目指す第40普通科連隊（以下、40 普連）の対戦。先鋒戦、16 普連 A・小田博飛選手が上胴を二本決めて勝利。中堅戦では16 普連



青年第1部優勝＝第16 普通科連隊

A・小池要選手が下胴を決め優勝に王手をかける。しかし、40 普連・井上隼人選手も負けじと下胴を取り返す。接戦のまま試合時間が終了し、判定の結果3―0で小池選手の勝利となり、16 普連 A の勝利が決定。大将戦では、40 普連・宮井雅希選手が判定3―0で勝利し、40 普連は最後まで戦い抜く姿勢を見せた。
16 普連の2部門制覇は2年ぶり2回目。複数回の2部門制覇は現在の



青年第2部優勝＝第16 普通科連隊 A

第1・2部制になった第42回大会以降初となる。
●優勝チーム監督コメント
▽蘭田泰之監督
（青年第1部優勝 16 普連監督）
「去年と同じく2部の優勝を見届けたからの決勝で、昨年は敗れてしまいましたが今年は優勝することができました。先鋒の織田選手は今年が最後の出場でしたが、キャプテンと

してよくチームをまとめ、後輩たちもしっかり花道を飾ってくれました」

▽小川淳監督
（青年第2部優勝 16 普連 A 監督）
「3連覇がかかるプレッシャーの中、その緊張感に負けずに優勝できたのは、選手たちの日頃の稽古の成果と心の強さによるものだと思います。選手たちには『ありがとう』と声をかけました」

【大会結果】

- 青年第1部
 - 優勝 16 普通科連隊（長崎）
 - ◎準優勝 日本原駐屯地（岡山）
 - 3位 豊川駐屯地 A（愛知）
- 普通科教導連隊 A（静岡）
- 青年第2部
 - 優勝 16 普通科連隊 A（長崎）
 - ◎準優勝 40 普通科連隊（福岡）
 - 3位 44 普通科連隊 A（福島）
 - 第1 普通科連隊 A（東京）



第37回全国高校生銃剣道大会

20年ぶりの日本武道館開催

名寄ピヤシリ銃剣道少年団（北海道）が団体V



【団体戦決勝】中堅戦…
名寄・石山蓮（左）対尽誠学園A・玉川



【団体戦決勝】大将戦…
名寄・石山響（左）対尽誠学園A・小菅

全日本青年銃剣道大会と同日同会場で、第37回全国高校生銃剣道大会（主催Ⅱ全日本銃剣道連盟）が開催された。

本大会は第2回大会から第17回大会までは日本武道館で開催されており（第8回大会を除く）、第18回大会から前回大会までは宮城県岩沼市の会場で開催されていた。今大会は20年ぶりの日本武道館での開催となり、会場は高校銃剣道日本一を目指す選手の熱気に満ち溢れた。

団体戦は名寄ピヤシリ銃剣道少年団（北海道／以下、名寄）と尽誠学園高校A（香川／以下、尽誠学園A）が決勝を争い、名寄が2－1で優勝した。

個人戦は男子の部では森本海選手（高知／高知中央高校）、女子の部では田中紅葉選手（鹿児島／国分中央高校）がそれぞれ優勝した。



団体戦決勝は、前回大会準優勝の名寄と、前回大会優勝の高知中央高校を準決勝で破った尽誠学園Aが対戦。先鋒戦では名寄・谷武蔵選手が下胴を二本奪って勝利。中堅戦でも、名寄・石山蓮選手が勢いそのまま胴を決める。後が無い尽誠学園A・玉川大翔選手が下胴を奪い反撃するも、すかさず石山蓮選手が下胴を奪い、二本勝ちとなった。勝負は決まったが、尽誠学園Aの大将・小菅康平選手が上胴と下胴の二本を奪い、尽誠学園Aも最後まで健闘した。

個人戦男子の部では、高知中央高校・森本選手と新潟県の元氣道場・小池健太選手が対戦。実力伯仲の試合は3分間で決着がつかず、判定の結果、森本選手が優勝した。

個人戦女子の部では国分中央高

校・田中選手と佐賀県の大河塾・西村歩育選手が対戦。序盤戦で田中選手が胴を決めて先制。その後、西村選手が取り返しにかかるも、時間いっぱい一本を守り切った田中選手が優勝した。



団体戦優勝＝名寄ピヤシリ銃剣道少年団

●優勝チーム監督コメント
▽寒河江正博監督

「久しぶりに優勝することができました。今年は実力のある選手が揃っていますので、10月に開催される国民スポーツ大会での優勝も狙っていききたいと思います」



【個人戦男子の部決勝】森本（左）対小池



●個人戦男子の部優勝者コメント
▽森本海選手（高知中央高校）

「判定での勝利について」最後まで自分の中で自信はなく、厳しい試合だと感じていましたが、なんとか勝つことができました。優勝できて嬉しいです」



【個人戦女子の部】田中（左）対西村



●個人戦女子の部優勝者コメント
▽田中紅葉（国分中央高校）

「最初に一本取った後も落ち着いて試合できたと思います。ここまですべて一緒に戦ってくれた仲間たちに感謝したいです。今後も銃剣道を続けていきたいと思っています」

【大会結果】

●団体戦

優勝 名寄ピヤシリ銃剣道少年団（北海道）

準優勝 尽誠学園高校A（香川）

3位 高知中央高校（高知）

5位 横浜修悠館高校B（神奈川県）

長崎県選抜（長崎）

元氣道場（新潟）

横浜修悠館高校E（神奈川県）

佐賀農業高校A（佐賀）

個人戦男子の部

優勝 森本海（高知中央高校）

準優勝 小池健太（元氣道場）

3位 谷武蔵（名寄ピヤシリ銃剣道少年団）

5位 竹ノ内晴生（鹿児島県選抜）

山城名以（高知中央高校）

小山哲央（長崎県選抜）

潮見涼成（滋賀県選抜）

園田龍之介（都城少年少女銃剣道クラブ）

個人戦女子の部

優勝 田中紅葉（国分中央高校）

準優勝 西村歩育（大河塾）

3位 坂口瑠南（国分中央高校）

5位 糸原心温（鳥取県立武道館）

鳥谷椿（佐賀農業高校女子）

向井花緒（国分中央高校）

橋本真莉菜（山梨博真館）

藤本美尋（大河塾）